

イベント情報 (7月~9月)

電話 (04-2934-4396) で博物館までご連絡ください。また、公式ホームページからもお申し込みできます。

◆わくわく子ども里山キャンプ ~めざせ!子どもキャンプマスター!!~

わくわくドキドキの1泊2日。みんなで協力して、テント張りやご飯作りなど普段体験できないことが待っています!

日 時: 7月27日(水)10:00~28日(木)15:00
対 象: 小学3年生~6年生
定 員: 20名 (7/9締切・抽選)
参加費: 9000円 (保険代・材料費)

◆里山体験教室・特別編 ~池のかいほりをしよう!~

西久保湿地のため池で生きもの探しと、昔から里山で行われてきたため池のかいほり(底の泥の取り除き)を体験してみませんか?

日 時: 9月10日(土) 10:00~12:30
対 象: 小学生以上 (小学生は保護者と参加)
定 員: 20名 (8/10受付開始・先着順)
参加費: 100円 (保険代)

◆親子はじめての自然観察 ~夜の生きもの観察会~

夜のみどり森で活動する生きものたちの観察会です。親子向け、軽食持参です。

日 時: 8月6日(土) 17:00~20:00
対 象: 小学生と保護者 参加費: 100円 (保険代)
定 員: 20名 (7/6受付開始・先着順)

◆みどり森 里山ようちえん

幼児期に親子で里山の自然と触れ合い、野外で遊ぶ事を目的とした、自然体験型の森のようちえんです。発育段階に合わせて、2つの組に分けて実施しています。

定 員: 各20名 (先着順)
参加費: 親子2名で1000円 (保険代・材料費・おやつ代)
※1名追加ごとに500円

【カエル組】

日 時: 9月25日(日) 10:00~13:30 (8/25受付開始)
対 象: 2016年4月1日の時点で
満4~5歳の未就学児と保護者

【オタマ組】

日 時: 9月28日(水) 10:00~13:30 (8/28受付開始)
対 象: 2016年4月1日の時点で
満2~3歳の未就学児と保護者

◆大人の自然観察会 ~鳴く虫の観察~

様々な生きものが見られるみどり森で、鳴く虫をメインに観察します。初心者向けの観察会です。

日 時: 9月24日(土) 18:00~20:00 (予定)
対 象: 中学生以上 (中学生は保護者同伴)
参加費: 100円 (保険代)
定 員: 20名 (8/24受付開始・先着順)



★みどり森ガイドウォーク実施中!

上記イベントの他、右記日程で当日募集型のガイドウォークを実施中(定員15名、年齢制限なし)案内所や大谷戸湿地周辺をご案内します。内容は毎回変わりますので、どんなテーマかは当日までのお楽しみ!

◎7月~9月までのガイドウォーク実施予定◎

実施日: 7月 2日(土) 17日(日)
8月13日(土) 21日(日) 27日(土)
9月 3日(土) 18日(日)
時 間: 土曜日13:00~14:00 日曜日11:00~12:00
※実施時間にご注意ください。
参加費: 無料 受付: 当日、案内所窓口にて

博物館からのお知らせ

◆緑の森博物館の利用ルール◆

緑の森博物館では、以下の7つのルールを守って楽しく過ごしていただくようお願いしています。

- 1) 植物や野鳥、小動物、昆虫等の生きものをむやみにとったり、傷つけたりしないでください。
- 2) 他から持ち込んだ動植物(外来種)を放さないでください。
- 3) 原則として広場や観察路以外の場所に入らないでください。
- 4) 犬などのペットを放さないでください。
(フンの後始末もしっかりと行いましょう)
- 5) 車道以外の場所には、自転車やバイクで入らないでください。
- 6) バーベキューや花火など火を使わないでください。
- 7) ゴミは持ち帰りましょう。

◆アクセス◆

- 公共交通機関をご利用の場合■
小手指駅南口より西武バス
「宮寺西」または「金子駅入口」行き乗車、約25分
「荻原バス停」下車、徒歩約10分
- 案内所までの地図■
右のQRコードを読み込むと緑の森博物館のHPのアクセスページが開きます。(一部、携帯電話では確認できない機種があります)
- ご来館時のお願い■
駐車スペースに限りがありますので電車・バスをご利用ください。



発行年月 2016年7月
発行 さいたま緑の森博物館
住所 〒358-0014 埼玉県入間市宮寺889-1
TEL/FAX 04-2934-4396
開館時間 9:00~17:00 【入館無料】
休館日 月曜日、祝日の翌日(その日が祝日の場合をのぞく)
公式HP http://saitama-midorinomori.jp/
指定管理者 株式会社自然教育研究センター

暑~い夏がやってまいりました

日に日に日差しが強くなり、湿った暖かい風と相まって、夏を感じられるようになりました。

夏鳥たちのさえずりは静かになり、夏の昆虫たちがそろそろ活動を始めます。みどり森の雑木林の中は、市街地よりも気温が2度ほど低いので、涼しさを感じながら生きものたちを観察するのも楽しいですよ!

また、夏といえば「ゲリラ豪雨」…。もし散策中に空が暗くなり、雷が鳴り始めた時は、木の下は危険です。早めに案内所などの建物に避難してください。雨のあとは、足下に気をつけて散策してくださいね。

今号のニュースレターは・・・

『この木に、この虫たち』です。キャベツにモンシロチョウの幼虫がつくように、特定の木に特定の虫がつかます。今回は、人間も昔から薪や落ち葉堆肥などに利用してきた「コナラ・クヌギ」をとりあげました。いったいどんな虫たちが、どのように利用をしているのでしょうか?



みどり森 里山広辞苑

緑の森博物館がテーマとしている雑木林や湿地・文化などについて、毎号キーワードを挙げて紹介しています。今回は、この地域の文化習俗である『西久保観音の鉦はり』です。

その17 西久保観音の鉦はり

毎年1月17日と8月17日に西久保観音で行われ、平成28年3月に埼玉県指定無形民俗文化財になりました。四つのだんご鉦と一つの太鼓を打ち鳴らす音楽的な調べにのせて、南無阿弥陀仏を唱える「双盤念仏」で、「西久保観音世音鉦はり保存会」によって継承されている伝統民俗行事です。

【歴史】

正式な起源ははっきりしていませんが、江戸時代からの伝統であることは間違いなく、子宝・安産祈願で多くの信仰を集めている西久保観音と共に、古くから民間で親しまれてきました。みどり森敷地内にある西久保湿地から歩いてすぐの位置にある西久保観音は、神亀5年(728年)に開かれたと伝えられています。

【双盤鉦(そうばんしょう)】

仏教音楽や民俗芸能で使用される肉厚の皿状をした楽器。西久保の双盤鉦は、第二次世界大戦中の金属品の供出の時に一度失われているため、現在の鉦は昭和29年に新調された鉦です。



はるか遠い昔から西久保湿地を始め、みどり森の移り変わりを生かすため、宮寺地区だけではなく多くの周辺地区からも愛されてきた西久保観音と伝統芸能の「鉦はり」。

8月17日の縁日には、出店や打ち上げ花火も上がり、盆踊りや近隣の太鼓連の演技でも賑わう「鉦はり」を、ぜひ一度訪れてみてくださいね。

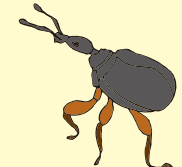
参考文献: 入間市史「民族文化財編」

この木に、この虫たち

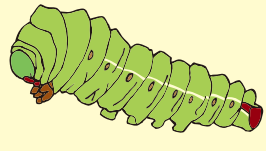
コナラ・クヌギ編

葉っぱ

葉をガ・チョウの幼虫が食べたり、オトシブミの幼虫が食べたりします。オトシブミは卵を包むように葉を巻きます。幼虫は中からその葉を食べて育ち成虫になります。



ヒメクロ
オトシブミ



ヤママユガ
幼虫



アカシジミ
幼虫

その他にも、カメムシの仲間などは葉の汁を吸います。ハチやハエなどが葉に寄生することで、葉が形を変え「虫こぶ」が出来る時があります。

★そのほかに…

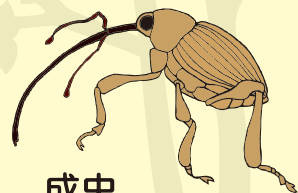
マメコガネ、アオドウガネ、ムシクソハムシ、エダナナフシ、ツノアオカメムシ、アオスジキンカメムシ、マルウンカ など



虫こぶ

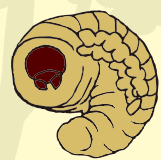
木の実

コナラとクヌギの木の実はどんぐりと呼ばれ、どんぐりを利用する虫で代表的な種類がゾウムシです。成虫はどんぐりにごく小さな穴をあけて産卵します。幼虫はどんぐりを食べて成長し、やがて外へ出て土の中で冬を越し、夏に羽化して成虫になります。



成虫

コナラシギゾウムシ



幼虫

★そのほかに…

クヌギシギゾウムシ幼虫、ハイイロチョッキリ幼虫 など

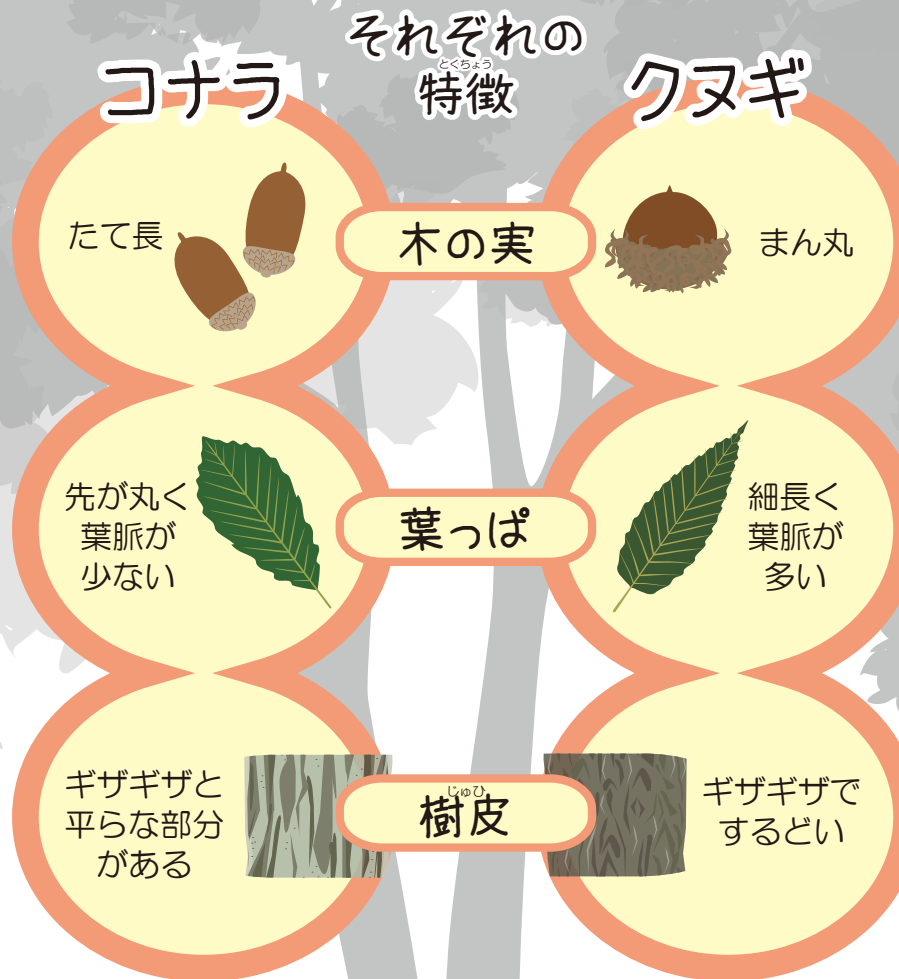
ボクたちからのおねがい！

これからずっとたくさんの生きものが住むことが出来るみどり森であるために約束を守って観察してくださいね。

- ①みどり森で生きものを観察したら、また来年も会えるように逃がしてあげてね！
- ②朽木を観察したら、きちんともともとして、やたらに朽木を砕いたりしない！
- ③生きている木の樹皮をはがしたりしないでね！
- ④道以外の場所には、立ち入らないで観察してね！

「夏」といえば、木に集まるたくさんの虫たち…。よく見ると虫たちにもそれぞれ好みがあり、どうやら種類によって特定の木を利用しているようです。

今回は、みどり森に数ある樹種のうち、昔から里山で薪や落ち葉堆肥などに使われてきた「コナラ・クヌギ」をピックアップして虫たちが木のどの部分をどのように利用しているのかを紹介します。



今回、紹介したクヌギやコナラは、みどり森にある木の中でも多くの虫たちが利用しています。葉や材、樹液、木の実など、ほぼすべてを虫たちは利用しているのです。みなさんも、コナラやクヌギの木を隅々まで探してみると、色々な虫たちが見つかるかもしれませんよ！

材

生きている木の幹部分や、キノコなどの菌によってボロボロになった状態の朽木を材と呼びます。カミキリムシやクワガタの産卵場所になっていて、卵からかえった幼虫は、材を食べて成長します。

材も食べるし、樹皮を傷つけて樹液を出すことでそこに集まる小さな虫も捕食します



ボクトウガ幼虫



シロスジ
カミキリ
幼虫



コクワガタ幼虫

★そのほかに…

ノコギリクワガタ幼虫、ヒラタクワガタ幼虫、エグリトラカミキリ幼虫、キマワリ幼虫 など

樹液

幹に穴をあける昆虫などにより、しみ出る樹液は、甲虫やチョウなどたくさんの虫たちのごちそうです。



カブトムシ



コクワガタ



オオスズメバチ

また、セミの仲間のようにストローのような口を幹に差し込み樹液を吸う種類もいます。

★そのほかに…

ニイニイゼミ、アブラゼミ、ヨツボシケシキスイ、キマダラミヤマカミキリ、オオムラサキ、キタテハ、サトキマダラヒカゲ、カナブン、ヤマトゴキブリ など